

地域課題の解決に向けた取組

無下刈り造林地を活用した情報提供と取組支援

～十勝地域における「新しい林業」の普及に向けて～

令和6年 撮影

十勝西部森林管理署東大雪支署

【背景と課題】

十勝地域では、主伐期を迎える人工林が増加する一方、厳しい作業環境や採算性の問題から、林業の担い手確保が困難な状況が続いている。このことは、地域の林業・木材産業全体への影響が懸念される大きな課題となっています。



【無下刈り造林の取組概要】

当支署管内の新得町屈足国有林では、平成30年度に大型機械により、ササ類根茎も除去する地拵えを実施し、クリーンラーチのコンテナ苗を植栽しました。この造林地は、下刈り作業の省力化を目的とした試験的な取組として造成されたものです。植栽2年目には平均苗長が170cmを超え、下刈りを行わない「無下刈り」を達成しました。一部に病害による被害は見られるものの、令和7年度には平均苗長が7mを超え、全体としては順調な生育を示しています。

【現地説明会・研修会の実施】

本造林地を活用し、昨年度（令和6年度）には、北海道庁関係者、十勝総合振興局、局管内自治体の担当者向けの現地説明会を開催しました。さらに、今年度は11月に、支署管内の請負事業体と局管内の自治体および森林組合の新任職員を対象に、それぞれ現地説明を実施しました。

【事業体からの意見と成果】

事業体にとっては、事業完了後に造林地の生育状況を確認する機会がほとんどないことから、今回の現地

説明は、実際の成果を踏まえた意見交換ができる貴重な場となりました。現地では、「リモコン草刈機を使用しても、炎天下での作業負担は大きい」「民有林と国有林で地拵え・植栽仕様が統一されれば、機械購入を検討しやすい」といった、現場目線での率直な意見が寄せられました。これにより、北海道森林管理局の取組に対する理解を深めていただくとともに、今後の改善点を共有する機会となりました。

【新任職員研修としての活用】

新任職員向けの技術研修会は、昨年度の説明会に参加した振興局担当者から「研修生にぜひ紹介したい」との提案を受け、本造林地を研修地として選定しました。

研修生からは、①民有林におけるカラマツ植栽での下刈り省略の可能性、②大型機械による地拵え可能な傾斜角度、③筐剥ぎ後の表土流出などについて、高い関心が寄せられました。



【今後の展望】

二度にわたる現地説明を通じ、事業体からは安全対策や省力化への期待、研修生からはカラマツ樹種でのさらなる成果を望む声が寄せられました。

担い手不足が深刻化する中、①民有林と国有林での造林仕様の統一による機械化推進、②無下刈り造林など省力化技術の情報提供、③第二試験地の設定などを視野に入れ、関係者との情報交換をしながら、「新しい林業」の普及・定着を目指します。